

J-97

1366

164
110

十字教會叢理問答

十字教會教理問答

此問答はもと獨逸語にてマルテンプルの著したるものなり

第壹十誠

是は一家の長たる者が其家族に教ゆべき平易き言葉にて書けるものなり

第一誠 汝我面の前に我の外何物をも神とすべから

汝自己のために何の偶像をも彫むべからず又上は天にある者下は地にある者なごびに地の下の水の中にある者の何の形状をも作るべからず之を拜むべからずこれ



問 此意味は何ぞや

答 我等は諸の物に優つて神を敬畏れ愛み依頼むべきことなり

第二誠

汝の神エホバの名を妄りに口にあぐべからずエホバはおのれの名を妄りに口にあぐる者を罰せではおかざるべし

問 此意味は何ぞや

答 我等は神を敬畏れ且愛み其聖名に因て呪詛誓ひ、巫術又は詐譎を爲す可からず然れ共必要なる場合に於ては聖名を呼求め或は祈禱讚美感謝を以て彼を崇拜むべきとなり

第三誠

安息日を憶えてこれを聖潔すべし

六日の間勞きて汝の一切の業を爲すべし七日は汝の神エホバの安息なれば何の業務をも爲すべからず汝も汝の子息息女も汝の僕婢も汝の家畜も汝の門の中に在る他國の人も然り其はエホバ六日の中に天と地と海と其等の中の一の物の物を作りて第七日に息みられたればなり是を以てエホバ安息日を祝ひて聖日としたまふ

問 此意味は何ぞや

答 我等は神を敬畏れ且愛み其聖語聖日及び説教を輕んせず却て聖く憶へ悦んで聽き従ひ又學ぶべしとのとなり

第四誠

汝の父母を敬へ是は汝の神エホバの汝に

まふ所の地に汝の生命の長からん爲なり

問 此意味は何ぞや

答 我等は神を敬畏れ且愛み両親及び高貴の人々を
輕ト又は忿怒を起する事なく却て彼等に從ひ貴
び愛むべしとのとなり

第五誠 汝殺す勿れ

問 此意味は何ぞや

答 我等は神を敬畏れ且愛み隣人の身體を障害する
となく却て諸般の危険窮迫に就て彼を扶助べし
とのとなり

第六誠 汝姦淫する勿れ

問 此意味は何ぞや

答 我等は神を敬畏れ且愛み言と行とに於て貞節を
守り各自その配偶を敬ひ愛むべしとのとなり

第七誠 汝盜む勿れ

問 此意味は何ぞや

答 我等は神を敬畏れ且愛み隣人の金錢及び其他の
所有物を盜まず或ハ偽りの品物を以て又ハ行爲
に依て欺くとなく却て其活計及び所有物を守護
り益ある様彼を助くべしとの事なり

第八誠 汝その隣人に對して虚妄の証據をたつる勿
れ

問 此意味は何ぞや

答 我等は神を敬畏れ且愛み隣人に偽証を立又は隣

人を裏切し誹謗るとなく却て彼を赦免し且譽む
べしとのとなり

第九誠

汝その隣人の家を貪る勿れ

問 此意味は何ぞや

答 我等は神を敬畏れ且愛み隣人の所有品或は家を
奸計又は義を見せ掛けを以て取らんとする事な
く却て夫を保存する様彼を助くべしとのとなり

第十誠

汝の隣人の妻及びその僕婢牛驢馬並に凡て
汝の隣人の所有を貪る勿れ

問 此意味は何ぞや

答 我等は神を敬畏れ且愛み隣人の妻僕婢又は家畜
を去らしめ或は誘引し及び奪去るが如きとなく

却て止り且其責務を爲す様彼等に勸むべしとの
となり

問 總て右の誠に就て神は何と云ひ賜ひしや

答 神は「我エホバ汝の神は嫉む神なれば我を惡
む者にむかひては父の罪を子にむくいて三四代
に及ぼし我を愛しわが誠命を守る者には恩恵を
施きて千代にいたるなり」と宣へり

問 其意味は何ぞや

答 神は誰にても右の誠を犯す者を罰之給ふ故我等
は彼の忿怒を恐れ其誠に逆ひて何事をも爲すべ
からず然れ共神は其誠を守る者に誰にても恩
恵と祝福とを約束爲給ふ故我等は彼を愛し彼に

依頼み且悦んで其誠に順奉べきとなり

第貳 信經

これは一家の長たる者が其家族に教ゆべき平易き言葉にて書けるものなり

第一ケ條 創造に就て

我は天地の造り主能はざる所なき父の神を

信す

問 此意味は何ぞや

答 神は萬有と共に我を造り給ひまこと我身體靈魂耳目四肢及び理性と感覺並に衣食住又は妻子地

第二ケ條 贖罪に就て

所家畜其他身體と生命の爲に總て必要の物を日々豊に供給諸の危難を防ぎ凡ての惡より我を守護り給ふとを我は信す而して我は少しの功勞或は價值無しと雖是全く慈父の如き神の善良と慈愛とより出しものなれば彼に従順奉事且感謝讚美すべきは我に於て盡すべき義務たるを信す是は確に誠なる事なり

我は其獨子我等の主イエスキリストは即ち

聖靈によりて姪める處女マリヤより生れ

ンテオピラトの時苦楚みを受け十字架に釘

られ死て葬られ陰府に下り第三日に死者の

中より甦り天に昇り能はざる所なき父の神
の右に座し又生る人と死る人とを審判せん
爲に彼處より來り給ふ主を信す

問 此意味は何ぞや

答 我の永遠より聖父の生み給ひて其の神にして且
處女マリヤより生れたまへる眞の人たるイエス
キリストは我を其御國にて彼の配下に彼のもの
とて生活しめ且彼が死より復活り永遠に生き
て支配爲給ふ如く無窮の義と潔白と神恩との
中に在て彼に奉事させんが爲金銀を以てせず彼
の神聖の寶血と罪無き苦と死とを以て總ての罪

第三ケ條 聖と成さるゝ事に就て

と死と及び悪魔の權内より我を買取り且罪に定
められ又失なはるべき我を贖出せし我主たる事
を信す 是は確に誠なる事なり

我は聖靈と聖なる基督教會則ち聖徒の交接
と罪の赦免と身體の復活と窮りなき生とを
信す アーメン

問 此意味は何ぞや

答 我は自己の理性又は能力にて決して主イエスキリ
ストを信じ或は彼に近き能され共聖靈は我を福
音に依て召し恩恵に依て明かに導き眞の信仰に
依て聖とぞ守り給へり。聖靈は凡て地上にある

基督教會を召集め明かに導き一の眞の信仰に依
 てイエスキリストと一致せしめ且守り給へり。聖
 靈は基督教會にある我と凡ての信者を去て諸の
 罪を赦免し且末日に至て我と衆人を死より甦
 らせ給へども只我と凡ての信者と共に永遠生命を
 與へ賜ふとを信す 是は確に誠なる事なり

第參 主の祈禱

是は一家の長たる者が其家族に教ゆべき平易き言葉にて書ける
 ものなり

天に在す我儕の父よ

問 此意味は何ぞや

第一の祈願 願くは爾名を尊崇させ給へ

答 神は恰も親み深き子供が其慈父に接する如く我
 等が有らん限りの喜びと信任とを以て彼に懇願
 得させん爲に彼は我等の父にして我等は其子供
 たるとを信すべき様此語に依て親しく我等を誘
 導賜ふなり

問 此意味は何ぞや

答 神の御名は素より實に神聖なりと雖も尙又我等
 の中に尊崇られ給はんとを此祈願に依て禱る也
 問 是は如何にして成さるや

答 神の聖語の正實と清潔とを慕へられ且我等は神
 の子供として其聖語に従ひ聖き生活を爲すとき

に成就するなり
 「天に在す親しき聖父よ願くは是事を爲せ給へ」
 然れども聖語の教に依らずして外のとを教へ又
 其如く生活する者の神の聖名を瀆すなり
 「天に在す親まき聖父よ願くはかくのごとき事
 より我を防ぎ給へ」

第二の祈願 爾國を臨らせ給へ

問 此意味は何ぞや

答 神の御國は我等の祈禱を俟ずして夫れ自身に臨
 る可きものなりと雖尙又我等に臨らんとを此祈
 願に依て禱るなり

問 是は如何にして成さるゝや

答 天の聖父我等に聖靈を賜り我等は其恩恵に依て
 聖語を信じ現世に於ては信仰深き生涯を送り亦
 天國に於ては永遠生命を受る時に成就するなり

第三の祈願 爾旨の天よ成るごとく地にも成せ給へ

問 此意味は何ぞや

答 神の善良にまて惠深き聖旨は我等の祈願を俟ず
 して成さるゝと雖尙又夫れが我等の中にも成さ
 れんとを此祈願に依て禱るなり

問 是は如何にして成さるゝや

答 神は聖名を尊崇しめず御國を臨らしめざる悪魔
 と世と肉の希望との如き凡てのあまき謀議並に
 其目的をば妨げ且破り給ふ然れども其聖語及び

信仰に依て我等を終りに至る迄保護又強固之給ふ時に成就するなり 是神の恵深く且善良なる聖旨なり

第四の祈願 我儕の日用の糧を今日も與へたまへ

問 此意味は何ぞや

答 神は總ての惡人にすら我等の祈願を俟ずして日用の糧を與へ給ふ然れ共感謝を以て其を受る様我等を導き給はんを此祈願に依て禱るなり

問 「日用の糧」といふ意味は何ぞや

答 身體の需要物並に補助に屬する總ての物を云ふなり例へば食物、飲物、衣類、履物、家屋、地所、家畜、金錢、家財、信仰厚き配偶、信仰厚き小供、信仰厚き僕婢、信

仰厚くして親切なる宰、善良なる政府、好き氣候、平和、健康、品位、尊敬、良友、信實なる隣人等の如し

第五の祈願 我儕に罪を犯すものを我ゆるす如く我儕の罪をも免じ給へ

問 此意味は何ぞや

答 天に在す我等の聖父は我等の罪を認す或は罪の爲に祈りを却け給はざる事を此祈願に依て禱るなり。何となれば我等は何物をも願ふの價値なく又得るに堪えず而かも日々多くの罪惡を犯したれば刑罰を受くべき者なれども只恵みに依て諸てのものを與へ給はんを禱り奉るなり而して我等の方に於ては我等に罪を犯したる人に心よ

り免し且快く善を行ふべしとなり
第六の祈願 我儕を試探に遇せず

問 此意味は何ぞや

答 神は實に人を試探み給はず然れど悪魔と世と我等の肉體とが我儕を欺き或は誤信、絶望、其他恥づべき罪又悪風に誘導得ざる様我儕を防ぎ守り給はんことを此祈願に依て禱るなり而して仮令我儕は試探みらるゝ共終に打勝ち得さしめ給はんことを禱り奉るなり

第七の祈願 惡より拯出し給へ

問 此意味は何ぞや

答 以上總ての祈願の要領として天に在す我等の聖

父に我等は身體と靈魂と財産と名譽とのために爲す惡しき行爲より救出し給はんことを死に臨みては幸福なる終焉を與へ且恵に依て此死の悲哀の谷より天に在す彼れ自らの許に取り給はんことを此祈願に依て禱るなり

(國に權と榮は附の窮なく有らたもふ所あり)アーメン

問 此意味は何ぞや

答 天に在す我等の聖父は自ら斯く祈るべきを命じ且夫れを快く許諾す可きを約し給ひたる故我等の右の祈願は彼に上聞らるゝこと疑ひなきとのとなり

「アーメン」とは即ち然りとの義なり

第四 洗禮の聖禮典

是は一家の長たる者が其家族に教へき平易き言葉にて説けるもの也

第壹

問 洗禮とは何ぞや

答 洗禮の水は通常の水而已に非ずえて神の命令の中に含蓄れ且神の語に結付られたる水なり

問 其神の語とは何ぞや

答 我等の主イエスキリストが馬太傳終の章に仰られたる其語にして即ち「爾曹ゆきて萬國の民に「バプテスマ」を施し之を聖父と聖子と聖靈との名に入て弟子と」とある是なり

第貳

問 洗禮の益は何ぞや

答 洗禮は神の語と約束とに告る處を信する總ての者に罪の赦免を授け及び死と悪魔より救出し且永遠無窮救拯ひを與ふるの益あり

問 其神の語と約束とは何れの處を云ふや

答 我等の主イエスキリストが馬可傳終の章に仰せられたる其語にして即ち「信じてバプテスマを受る者は救れ信せざる者は罪に定めらるゝ也」とある是なり

第三

問 水は如何にして此の如く大切なる事を爲し得るや

答 其大事は水が爲すに非ずして水の中に又水と共に在る神の語及び水に關する神の語を信認するの信仰之を爲すなり何となれば神の語なき水の通常の水にまて「バプテスマ」に非ず然れ共神の語と伴は「バプテスマ」即ち生命の恵みある水にて又聖靈に因る重生の洗ひなり

例へば聖パウロが提多三章五節より八節迄に於て「唯その矜恤に循ひ重生の洗と聖靈とに由て新にする事とを以て我等を救へり聖靈即ち神我儕をして其恵により義とせられ嗣子たるを得て窮なき生命を望み待しめんが爲に我儕の救主イエスキリストに由て豊に我儕の上に注ぎたまへ

第四

る所のもの也此は信すべき話なり」と云るが如き

問 水を以て此の如く洗禮を施すとは何を示すや

答 我等の内なる舊き人は日々の悲歎と後悔とを爲しつゝ、諸々の罪及び罪に屬する愆と共に溺れ死し再び義と清潔とを以て神の前に永遠く生る新しき人の日々に現れ且起る可き事を示す也

問 此事は聖書の何處に記しあるや

答 聖パウロは羅馬書第六章四節に「我儕その死に合ふバプテスマに由て彼と共に葬らるゝはキリスト聖父の榮に由て死より甦らされま如く我儕も新しき生命に行べき爲なり」と云へり

第五 聖餐の聖禮典

是は一家の長たる者が其家族に教ゆべき平易き言葉にて書けるものなり

問 聖餐の聖禮典とは何ぞや

答 其は食ひ且飲むべく基督信者たる我等の爲にキリスト自ら設定給ひたるものにして麵包と葡萄酒に依て我等の主イエスキリストの眞の肉と血とを受るとなり

問 是は聖書の何處に記さるゝや

答 聖なる傳福音者馬太馬可路加ならびに聖パウロも共に斯く書著せり我儕の主イエスキリスト賣るゝ夜パンを取り謝して之を擘き弟子に予へて

問 斯く飲食するとは如何なる用を爲すや

答 其は「罪を赦免さん」と汝曹の爲に予ふる且流す」

問 身體の飲食が如何にして此の如く大切なるを爲

は此語を通して予へらるゝものとなり何となれば罪の赦免あらば亦生命と赦ともある故なり

一 得るや
 答 其大切なる事を爲し遂ぐるものは飲食に非ず罪を赦免さんとして爾曹の爲に予ある且つ流す」その語にして身体の飲食に伴ふ處の以上の語は此の聖禮典に於て最も重要なが故に此語を信する者は罪の赦免を得るなり

問 何人が此聖禮典を受るに適當なるや
 答 斷食並に身体の準備は實に好き外部の仕度なりと雖も「罪を免さんとして爾曹の爲に予ふる又流す」その語に信仰を有つものは之れを受くるに好く準備したる適當の人なり然れども此語を信せざる者或は疑ふ者は不適當にして且準備せざる者

なり何となれば「爾曹の爲に」その語は實に信仰の心を要求する故なり

一家の長たる者は其家族は朝夕かくの如く祈るべしと教ゆべし

朝の祈禱

(毎朝起きて先づ左の如く唱へ)

聖父と聖子と聖靈との聖名に依りアーメン

(然る後ち次の祈禱を唱ふべし)

天の聖父よ汝は終夜總ての危難と不幸とを防ぎ保護

り給ひたるを謝し奉る今日も汝の聖旨に合ふ爲に
 諸の罪と悪事とより離し正しき思ひと言と行とを以
 て汝に奉事させ給はんを希ひ身体と靈魂と凡ての
 ものを汝の御手に委ね奉る而して悪魔に打勝れざる
 爲に我に就ての保護りを汝の聖き天使に持せ給はん
 とを聖子イエスキリストに依て希ひ奉る アーメン

晩の祈禱

(毎夜寝る前に先づ左の如く唱へし)

聖父と聖子と聖靈との聖名に依り アーメン

(然る後ち次ぎの祈禱を唱ふべし)

天の聖父よ汝は終日大なる恵を與へ且保護り給ひた
 るとを謝し奉る今日我れ誤て犯したる諸の悪事と罪
 とを免し且大なる憐恤に依て今夜総ての災害と危難
 とを防ぎ護り給はんを希ひ身体と靈魂と凡てのも
 のを汝の御手に委ね奉る而して悪魔に打勝れざる爲
 め我に就ての保護を汝の聖き天使に持せ給はんを
 聖子イエスキリストに依て願ひ奉る アーメン

(一家の長たる者其家族に食卓の際斯く祝福を願ひ且感謝す
 べきを教ゆべし)

嗚呼天の父なるエホバの神よ我等の主イエスキリス

トに依て汝の慈愛より與へ給ふ汝の賜と我等を祝
福給へアーメン

明治七年一月二十日印刷
明治七年二月二十日出版

佐賀縣佐賀市松原町二十八番地

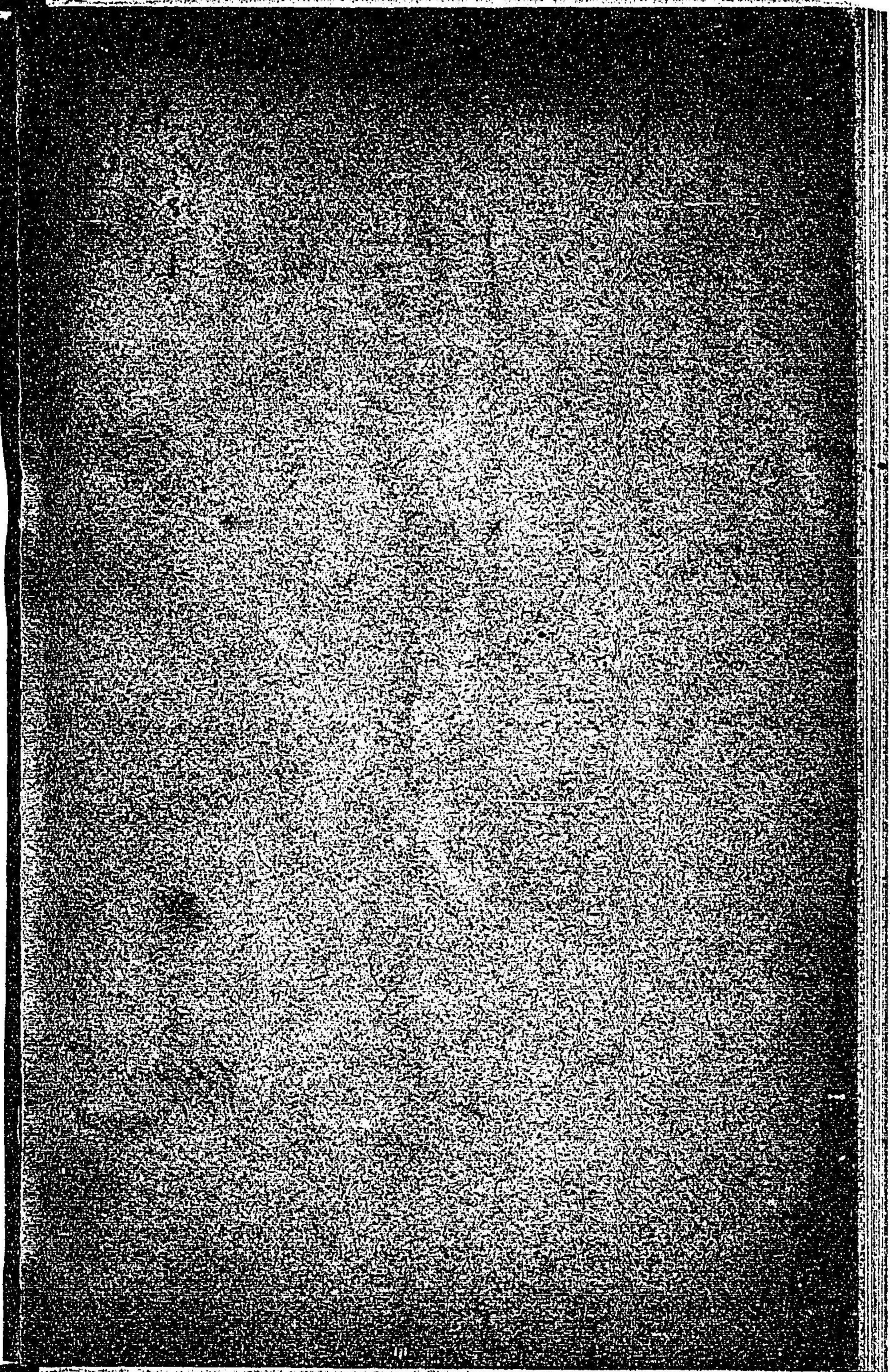
著者兼発行人 山内量平

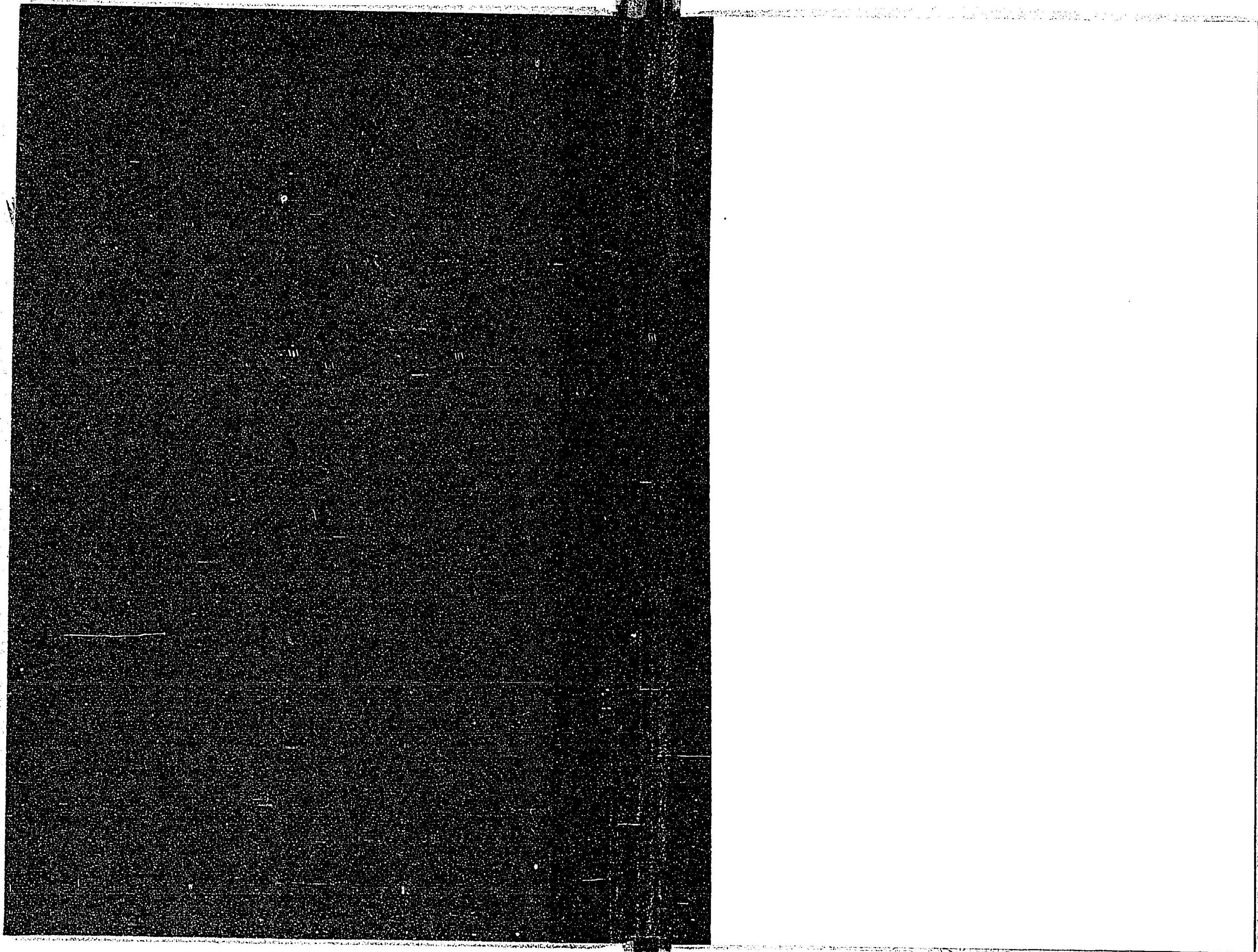
佐賀縣佐賀市松原町二十八番地

印刷人 山内良藏

東吉野郡野田町三番町六十九番地

印刷所 南海堂





9
15

十字教會教理問答

国立国会図書館

020724-000-3

特49-825

十字教会教理問答

マルテン・ルーテル・原著

M27

ABI-0544



8